

## ○ 委員長報告

6月定例会本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和4年6月定例会

### 農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、畜産農家への飼料高騰対策についてであります。

このことについて一部の委員から、酪農をはじめ、畜産農家の経営悪化について、どのように認識しているのか。また、飼料コスト低減化支援事業により、どのような対策を講じるのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、酪農を含む畜産業全体が大変厳しい経営状況にあることは十分認識しており、特に酪農経営では、輸入牧草の価格高騰について、国の補填制度がないことから、農家負担が大きい状況にあると考えている。

このため、本事業では、自給飼料の増産を進め、配合飼料の割合を低減させることで、飼料高騰の影響を受けにくい経営体制への転換を図るため、増産に必要な機械や収量向上のための多収品種の導入等を支援することとしており、今後も、国の制度を最大限活用しながら、効率的な支援を検討したい旨の答弁がありました。

第2点は、アコヤガイへい死対策についてであります。

このことについて一部の委員から、例年アコヤガイのへい死が多く発生している時期に差し掛かっているが、各海域の稚貝の状況とへい死対策はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、愛南町では、先月半ばの調査で稚貝から病原ウイルスが確認されたが、へい死には至っておらず、宇和島市では、わずかながらへい死が見られ始めたが、現在のところ、いずれも大量死には至っていない。

また、新しい海域での飼育試験では、事前にPCR検査を行いウイルスが検出されていないことを確認しているが、水温が上昇してきているため、貝にストレスを与えるような作業を控えるよう関係者に注意喚起するとともに、引き続き、へい死に至るメカニズムの解明に取り組み、へい死を減らす対策を講じていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、県産かんきつファン拡大の取組みについてであります。

このことについて一部の委員から、県産かんきつファン拡大事業の目的と内容はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今年度は、本県で開催中の「えひめ南予 きずな博」に加え、今後「プロ野球オールスターゲーム」「サイクリングしまなみ 2022」などの大型イベントが開催される予定であり、県内への誘客促進が期待できる。

このため、本事業では、航空会社と連携し、7月下旬の夏休みから秋の行楽シーズンまでの約4か月間、東京便や大阪便を中心に、毎日1便ずつ、乗客全員に本県農林水産物の「顔」と言える県産かんきつの果汁100%ジュース等をプレゼントする企画を実施することとしており、事業の実施を通して、県産かんきつのファン拡大を図り、消費拡大につなげたいと考えている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・山地防災治山事業
- ・省エネ型農業競争力強化支援事業
- ・真珠の生産量及び販売額
- ・ひめの凜の生産拡大
- ・CLTの需要拡大

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。